

弥富相生山線の建設の是非は？市長・副市長が住民の意見を聴取

天白区役所講堂で開かれた「住民意向調査」の昼の部には名古屋市指名の4団体「相生山の自然を守る会」「相生の里山連絡会」「相生の四季を歩く会」「市道弥富相生山線を考える市民の会」から100人が参加しました。4団体は、市長が直



接意見を聴く機会なので、熱をこめてそれぞれが意見を発表、2時間の会は盛り上がりました。傍聴は市議員のみなので、夜の部の様子は新聞によってしか分かりませんが、参加者は73人でした。(市長の写真は中日新聞より)

昼の部では、市長は「民主主義だから言いたいことを、思うところをドンドン言ってほしい」と挨拶。4つの団体は「道路建設を中止して自然を守ってほしい」「未来に生きる子どもたちにこの緑地は必要」「人口も減り、車も減る、これ以上道路はいらない」「ヒメボタル、野鳥、植物を守ってほしい」「入り込みは住民の話し合いで解決できるし、実例もある」「渋滞はもう解消している」「森の保水力は水害から守るが、道路が出来れば水害の懸念が大きくなる」「森の経済効果を評価してほしい」「新たな渋滞が生じる」「子どもの通

学路が危険」「相生山を緑地公園にしたい」「出来ている部分を壊さずにモニュメントにする」などの意見を表明。夜の部は新聞報道によると、「地震や水害時の避難路として必要」「山火事の消火に必要」「道路とヒメボタルの両立は可能」「渋滞緩和のために必要」「子どもの通学路が安全になる」「生活道路への入り込みがある」「交通規制を無くしてほしい」「29億円も税金を使って中止するのか？」など、道路建設促進の意見が発表されました。



昼の部の4つの「諸団体」は、会の活動も目的もそれぞれ違います。他の3団体は相生山の自然を守るために道路建設に反対している団体、相生山緑地で自然観察をしているグループ、相生山を緑地公園にしようという団体で、「自然保護」の立場から道路建設に反対。夜の部の4学区学区連等の代表は新聞報道によると道路建設推進の発言でした。私達「市民の会」は公正な住民意向調査を求めている会。①なぜ一般市民の意向を調査しないのか？なぜ傍聴が出

来ないのか？②資料が道路のみの説明で緑の視点が消えている100年先をどう考えるのか？③市民による市民による住民意向調査の中間発表(表面参照)の3点を共同代表がまず発言しました。市長は、「これが意向調査の最後ではない、住民投票は民主主義の原点だ、まだ止めたわけではない」「住んでいる人にとって、いい結論を出したい」と挨拶で言っていました。